

Q3. 通学時が特に心配です。何か対策はありますか？

A3. (歩くときも油断しない)

子どもに「周囲に危険がないか早い目にチェックしながら歩く」ことの大切さを感じさせるのは、なかなか容易なことではありませんが、いつもわすれないように繰り返し言い聞かせ、実際に練習しながら習慣にしていけることがコツです。

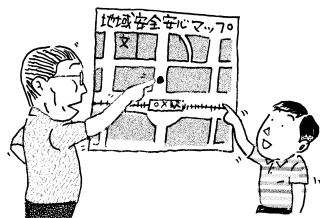
●通学時に危険を回避するポイント

- ◎一人にならない
 - ◎人目のない所、荒れた場所に近づかない
 - ◎不審な車や人を遠くからチェックして、距離をとる
- の三つが大切です。

また、通学路などの道路では、どんな犯罪や事故が起きる危険性があるのかを具体的に話してあげることも効果的です。実際に周囲の異常にいち早く気づいて対応できるようにするには、日頃から練習しておくことが大切です。まず、道の安全な歩き方から練習させましょう。子どもと一緒に通学する友だちも一緒に練習するとよいですね。また、道路の様子は絶えず変化します。工事が始まったり、お店が変わったり、それによって車の交通量や人通りも違ってきますので、ときどきチェックすることも必要です。

(地域安全マップを作る)

通学路の安全マップを考える際に、子どもの行動範囲を中心にした「地域安全マップ」を作っただけではいけません。子どもの学校までの道、駅までの道、おけいこ教室の場所、図書館、児童館までの道、友だちの家や公園までの道、これらを地図に描き、危険な箇所をそれに書き入れていくと、より通学路の危険について分かりやすくなります。



親子で一緒に、またお友だちを誘ったり、学校に提案したりして、身近な町の「危険な場所」と「守ってくれる場所」、「こども110番」や親切なお店などをチェックしてみてください。

通学路を一緒に歩いて、周囲の危険をチェックしておきましょう。

《出典：「犯罪の危険から子どもを守る！子どもと親の不安を解消する77のヒント」》

Q4. いざという時、大声を出せるのでしょうか？

A4. (個性に合った方法で)

おとなしい子、優しい子、声の小さな子…。子どもにはそれぞれ個性がありますから、「いざという時は絶対に大声を出さなくちゃダメ」というように追い込まれると、緊張してかえって声が出なくなる場合もあります。大きな声で対処するように指導しても、全員がうまくできるとは限りません。また、本当に恐怖を感じた時、人間はすくんでしまい、大人ですら声が出ないことがあります。それぞれ子どもの個性に合った方法が必要ですね。

(声の代わりになる物を)

では、声が出せない場合、声の代わりになる物はないのでしょうか。「防犯ブザー」などの防犯グッズを利用し、「声が出なかったら、これを使う方法もあるよ」といくつかの選択肢を与えてあげるのもいいでしょう。防犯ブザーには、片手で操作できるタイプ、ランドセルの肩ベルトに吊り下げられるタイプ、携帯ストラップ状の物などさまざまなタイプが考案されていますし、値段も1000円前後からあります。ブザーで他の人が来てくれなくても、その大きな音だけで加害者が退散した事例がいくつもあります。ただ、いざという時に使えなかったら意味がないので、定期的に電池などを点検し、歩いている時にすぐに鳴らせる状態で携帯することが大切です。



(遊びながらでも発声練習)

誰でも日頃していないことを急にするのは難しいものです。親子で、時には友達を巻き込んで、ゲームやロールプレイで遊びながら大声を出す機会をたくさん作ってあげましょう。休日、自然の中で、やまびこや大声比べで楽しみながら大声を出してみるのも効果的です。そういう日頃からの練習の積み重ねが大声を出す自信をつけてくれるものです。

《出典：「犯罪の危険から子どもを守る！子どもと親の不安を解消する77のヒント」》